令和３年度事業報告書

公益財団法人　北九州活性化協議会

目 次

（ 概況 ） ・・・・・・・・・・・Ｐ１

（ 事業報告 ）

Ⅰ　公益目的事業　１

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と
活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与する事業

１　“もったいない”を未来に引き継ぐ事業 ・・・・・・・・・・・Ｐ2
（もったいない総研事業）

２　産業人材を育成する事業 ・・・・・・・・・・・Ｐ3
（北九州地域産業人材育成フォーラム事業）
※別紙１参照

３　次世代を担う人材を育成する事業 ・・・・・・・・・・・Ｐ3
（「北九州の企業人による小学校応援団」事業 ）
※別紙２参照

４　都市格（文化力・教育力）を向上する事業 ・・・・・・・・・・・Ｐ3
（「1000人の夢寄金」事業）

５　まちづくり推進事業 ・・・・・・・・・・・Ｐ7

Ⅱ　法人運営事業 ・・・・・・・・・・・Ｐ9

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、
当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制
および財務基盤の強化を図る。

（ 概 況 ）

令和３年度は、新型コロナウイルス感染症の流行２年目となり、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令され、昨年度に引き続き経済活動や日常生活に影響のある１年となりました。

ＫＰＥＣの事業につきましては、対面での活動が大きく制限される中、オンラインでの対応も各所で進み、コロナ前には、まだ時間がかかりそうなところですが、昨年よりは回復傾向にあると感じております。

令和３年度のKPEC事業は、新型コロナウイルスの感染防止対策を万全に講じながら、もったいないを未来に引き継ぐ「もったいない総研事業」、産学連携による工学系技術人材の育成を目的とした「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、北九州市の小学校教育の環境支援をする「北九州の企業人による小学校応援団事業」、市民の教育、文化活動の支援を通じて都市格の向上を図る「1000人の夢寄金事業」を推進することができました。

なお、令和３年６月には、事業創成の限界および、財務体質の改善が見通せないことから、現事業の継続を主眼に、商工会議所への事業譲渡を行い、ＫＰＥＣも解散する方向として動き出しましたが、賛助会員の増加を図り、財務改善実施ができるグループによる運営を行うことで、ＫＰＥＣ存続へ大きく舵を切ることとなりました。引き続き、ＫＰＥＣ事業を推進する上で、現事業の事業報告をご確認いただきたいと存じます。

（事業報告）

Ⅰ　公益目的事業１

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

１．“もったいない”を未来に引き継ぐ事業　（もったいない総研事業）

“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライド（まちへの愛着・誇り）の醸成の企画・研究を行い、当協議会が提唱する”もったいない“の普及を図ることを目的とした事業。

１）資源循環型社会づくり施策の一環とした商品の企画・開発・普及を推進

（1）『北九州紙 えこっパー』の普及によるSDGsの推進

①『北九州紙 えこっパー』の普及促進

牛乳パック・古紙を再利用したリサイクルトイレットペーパー『北九州紙・えこっパー』を「北九州エコプレミアム選定商品（令和元年度に選定）」として効果的にＰＲするとともに、北九州市のホームページの暮らしの情報への掲載など、認知向上、普及拡大に取り組み、地域循環サイクルの実現を通じてＳＤＧsを推進した。

＜えこっパー販売数＞（１パック6個入り）

◇令和３年度販売数：149,824 パック（前年比△328 パック）
◇累計販売数（平成 13 年度～令和３年度）：3,772,992 パック

＜『えこっパー』のホームページでのＰＲ＞

◇北九州エコプレミアムホームページ　［選定検討会委員特別賞の紹介］
https://www.kitaq-ecotown.com/ecopremium/special/entry/797.php
◇北九州市ホームページ　［暮らしの情報（源回収された古紙の行方）］
https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyou/01100168.html

②『北九州紙・えこっパー』による環境教育の実施

全国牛乳容器環境協議会や北九州の企業人による小学校応援団事業等と連携して、牛乳パックリサイクル製品である『北九州紙・えこっパー』の企画意図と製作過程を環境教育教材にした出前授業を継続実施した。

２）市民が評価する北九州市の産業、文化、社会、生活等の中にある“価値あるもの”を「北九州市民財産（仮称）」として、“もったいない”の概念を踏まえた新しいシビックプライドとして捉え、これを体系的整理し街づくりに活用していく、「もったいない総研事業」の企画、研究および普及を推進する。

（1）“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業の開発

①『北九州市立旧百三十銀行ギャラリー』の指定管理事業の運営及び近現代建築物の保存・活用の研究の実施

「北九州市の文化財を守る会」と協働で旧百三十銀行ギャラリー（北九州市指定有形文

化財）の指定管理運営事業を円滑に実施するとともに、本事業を通じて、近現代建造物の保存・活用(ファシリティマネジメント)の研究と北九州地域の近現代建築物の紹介(パネル写真展・歴史講演会等を開催)および保存活動の推進を行った。

＜令和３年度の主催事業まとめ＞

項目	目標	結果
利用件数	４５件	２３件
稼働率	38%	32%

参考：コロナで中止が４件（利用予定１２日間がキャンセル）

２．産業人材を育成する事業

「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、「高度人材育成プログラム事業」「社会人育成プログラム事業」「青少年育成プログラム事業」及び「産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備事業」を実施し、産学連携による産業人材育成システムの構築に向けた企画開発と事業実施を行った。

※事業報告の具体的内容は、

「2021年度北九州地域産業人材育成フォーラム　事業報告書」（別紙１）の通り

３．次世代を担う人材を育成する事業　（北九州の企業人による小学校応援団事業）

「北九州の企業人による小学校応援団」を編成し、北九州市内小学校１２９校を対象に、出前授業、教員研修及びＰＴＡ活動促進支援事業を実施した。

※事業報告の具体的内容は、

「2021年度北九州の企業人による小学校応援団事業報告書」（別紙２）の通り

４．都市格（文化力・教育力）を向上する事業（1000人の夢寄金事業）

民間の力を結集し、教育や文化的活動を行う法人・個人・ 団体に対して活動費用を助成し、北九州市の未来のために、このまちの教育力・文化を共に育み、真に魅力ある まちづくりを進めて行くことを目的とした 「1000 人の夢寄金」事業

１）「1000 人の夢寄金」寄付金募金事業

北九州市民が行う、もしくは、北九州市で行われる教育・文化活動に対して支援を行う助成金の原資となる寄付金を、夢寄金の趣旨に賛同する個人・法人・団体から広く募集するとともに、寄付金の募集により夢寄金の実在を広く周知し、北九州市の都市格向上の推進と寄付文化の醸成を図った。

＜令和３年度寄付募集結果＞

◇寄付金合計：**1,369 千円**

＜寄付金実績推移＞　　（単位：千円）

年度	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	R03 (2021)	合計
金額	**1,975**	**1,786**	**2,003**	**583**	**2,111**	**2,041**	**2,272**	**1,973**	**42,678**	**1,369**	**58,791**

※R02 年度は「積木の箱」からの大口寄付金(41,224 千円)あり

(1) 基本寄付募集事業

① 基本寄付募集事業

基本寄付事業として、1 年に 1 回、寄付の募集を行った。（募集時期：6 月）

[寄付金額]

◇個人・団体：1 口　3,000 円／年

◇法人　　：1 口 10,000 円／年

＜基本寄付の募集結果＞

◇基本寄付件数：　**132件**　（前年比　▲12件）

◇基本寄付金額：　**991千円**　（前年比　▲146千円）

(2) プロジェクト寄付募集事業

プロジェクト寄付事業として「チャリティーゴルフコンペ」および「チャリティバザー」を企画したが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から開催を中止した。

“シマウマ組” が手作りで創る小倉織の縫いぐるみの販売については、引き続き人気を博しており、“シマウマ組” から縫いぐるみ売上げの寄付をいただいた。

＜プロジェクト寄付募集結果＞

◇プロジェクト件数　　：　**1件**　（縫いぐるみ販売）

◇プロジェクト寄付金合計　：　**178 千円**

①　1000人の夢寄金チャリティーゴルフコンペ企画・開催

「第 8 回 1000 人の夢寄金　チャリティーゴルフコンペ」は新型コロナウイスルの感染防止のため開催を中止した。

②　1000人の夢寄金チャリティーバザーの企画・開催

新型コロナウイルス感染防止のため開催を中止した。

③ ボランティアグループ『シマウマ組』との連携強化

ボランティアグループ“シマウマ組”から、小倉織の端切れ生地から創りだす縫いぐるみ「縞縞（しましま）のシマウマ」「時時（ときどき）ヨコシマなカバ」の売上金の寄付をいただいた。

（参考：販売価額 3,900 円/頭（税抜き）うち寄付 3,000 円/頭）

＜縫いぐるみ売り上げ寄付金＞

◇縫いぐるみ寄付金：**178 千円**

（３）その他の寄付（遺贈・香典返し、特定寄付等）

令和３年度は、特定寄付（あらかじめ使途を指定した寄付）として、大分製紙（株）から寄付をいただいた。

＜特定寄付募集結果＞

◇特定寄付件数　：　**1 件**　（大分製紙㈱）

◇寄付金額　　：　**200 千円**

①「北九州紙 えこっパー」の売上金の寄付

「北九州紙 えこっパー」を製造・販売している大分製紙株式会社殿より「えこっパー」の売上の寄付をいただいた。（１パックにつき１円の寄付）

＜大分製紙㈱殿からの寄付金＞

◇寄付金額　　：　**200 千円**

◇寄付金の使途　：「夢寄金」の教育・文化分野への助成

２）「1000人の夢寄金」助成事業

北九州市民が行う、もしくは北九州市で行われる教育・文化活動に対する活動費用の支援を行うことにより、このまちの都市格（教育力・文化力）の向上を図り、北九州市の活性化に寄与する。

(1) 助成事業の募集

① 助成事業の募集

公式ホームページ・Facebook、メールマガジン及び各種情報誌等への掲載より一般公募を実施した。

◇助成事業の募集：令和２年７月１日～８月３１日

(2) 助成先の選定

①「1000 人の夢寄金」審査委員会による審査

「1000 人の夢寄金」審査委員会を開催し、「助成金審査基準」に基づき、公平、公正、公明性を保ちながらも、独自性のある助成先の選定を行った。

審査にあたり、インターネットによるＷｅｂ投票を実施し、投票結果を審査の参考とした。

◇助成事業の審査：令和３年９月１３日（審査委員会）

◇選定結果　　：助成件数４件(応募件数４件)　助成金額合計１,０００千円

◇助成対象期間　：令和３年１０月１日～令和４年９月３０日

＜令和３年度　第１０回　助成先４事業＞

（単位：千円）

事業名	内容	団体	金額
豊な自然とくらしのまなびを届けるプロジェクト 「こどものうえんぷろじぇくと 2021▷2022」	「子ども主体・住民主体の食べたい野菜をみんなでつくる」を子供達の目線で、自然や事柄を丁寧に観察し、子供達自身が体験を通じて学ぶ事業。 １）農園活動　農園を訪れ、収穫や自然、農作業などを体験 ２）地域域の自然や緑に触れ合う・四季を通じた自然観察と散策活動 ３）ゴミ拾いや緑を育てる、などの環境美化活動選択的防除グリーンインフラの活用 ４）子どもの自然の中での群れあそびの機会を作る取り組み(プレイスペース実験実施) ５）子供達の表現の発表を通じた、北九州市の豊かな自然の再発見 ６）啓発広報活動	ＮＰＯ法人 あそびとまなび研究所 理事長　秋葉　祐三子	100
Kitakyusyu　夢プロジェクト ～　七色の子どもたち　～	子供たちの活動を市民に知ってもらうために、JCI 北九州の公式 YouTube チャンネルを用いて、部活動や課外活動で活躍している子どもたちの活動紹介や PV（プロモーションビデオ）をライブ配信で行う事業。	一般社団法人 北九州青年会議所 理事長　竹内　陽平	300
新「学習教材」を活用した 「生き方のデザイン授業」	2020 年度の夢寄金の助成で制作した新『学習教材』を活用した「生き方のデザイン授業」の実施。 新『学習教材』の現場での先生方の使いやすさ、子どもたちの学習効果などを調査し、意見やアイデアを取り入れ、必要に応じて改善を試みることで、より良い教材を目指す。	一般社団法人 生き方のデザイン研究所 代表理事　遠山昌子	300
北九州市の園児・小学校の親子総勢 1500 人による 「本気の大運動会」	園児、小学生親子（子ども１０００人、大人５００人）を対象とした、親子が本気で取り組む大運動会。親子のつながりはもちろんのこと、若者、企業、主催者、それぞれを笑顔でつなぐ事業。この事業を、今後の北九州の活性化につなげていく。	ONE キッズ先生 代表　國武　啓助	300

＜参考：過去の助成実績＞

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回	第 10 回	合計
助成期間	H25.4～H26.3	H25.10～H26.3	H26.10～H27.9	H27.10～H28.9	H28.10～H29.9	H29.10～H30.9	H30.10～H31.9	R1.10～R2.9	R2.10～R3.9	R3.10～R4.9	H25.4～R4.9
応募件数	10	14	10	19	16	10	16	9	7	4	115
助成件数	**4**	**6**	**7**	**7**	**9**	**9**	**9**	**8**	**5**	**4**	**68**
助成金額（千円）	**1,349**	**1,900**	**1,300**	**1,500**	**1,500**	**1,500**	**2,000**	**2,000**	**1,500**	**1,000**	**15,549**

３）広報・プロモーション事業の実施

「1000 人の夢寄金」の周知を図り、寄付金の拡充と事業運営への志ある市民参加を促進すると共に、助成対象関係者の認知度向上のための広報等を実施する。

(1) ホームページ、Facebook、メールマガジンによるタイムリーな情報発信

ホームページ、Facebook、メールマガジンにより、寄付金募集、助成事業募集、助成事業、寄付者情報、その他活動情報等をタイムリーに発信した。

(2) 「1000 人の夢寄金」事業報告書の発行と活用

年度事業報告書を作成し、寄付者に夢寄金事業の実施状況の報告と助成事業の説明を行い助成先の活動の周知を図ると共に、新たな寄付者、助成先の開拓のツールとして活用した。（令和３年６月発行）

＜事業報告書の発行＞

・2020 年度［令和 2 年度］1000 人の夢寄金事業報告（発行部数 500 部）

５．まちづくり推進事業

北九州市域の新しい課題、ニーズを適正に把握することにより、産・学・官・民の連携軸として北九州市域の活性化と持続的発展を図る事を目的とした事業。

１）産学官民連携による地域活性化事業の推進

(1) 新規事業の企画開発のための調査・研究の実施

ＫＰＥＣの解散／継続の検討を実施した。検討の結果、北九州ＪＣのＯＢを中心とした新運営体制でＫＰＥＣを継続することとなった。

(2) 地域づくりネットワークの構築

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業を推進する。

① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」(事務局KPEC)を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

ｉ）共同プロモーション事業の実施

各団体の保有する各種情報及び事業について、共同広報や参画支援等の事業運営にかかる協力、支援を行う計画にしていたが、新型コロナウイルスの影響により、活動を中止した。

② 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行った。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施

① 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成８年にKPECの提唱で始まった北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援した。

② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行った。

２）まちの活性化に関する情報発信事業

（１）情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えるための情報発信事業を推進した。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行した。

＜KPECニュースの発行＞

◇ KPECニュース Vol66 令和３年7月1日発行（発行部数1000部）

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図り、ＫＰＥＣ事業活動情報をタイムリーに発信した。

Ⅱ 法人運営事業

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図る方向性の提案を検討した。

１．事業運営体制の検討

１）ＫＰＥＣの事業運営・管理体制の強化

(1) 経営基盤の強化に資する事業開発・開拓

ＫＰＥＣの事業運営体制および産・学・官・民の推進の連携軸となるべきＫＰＥＣの在り方を検討する中、一時は解散を視野にした現事業存続を検討したが、財政面を改善することができる北九州青年会議所様よりの提案を受け、体制を一新することで赤字体質からの脱却を図ることとした。

(2) 寄付金事業の事業化

解散を視野にしている中、コロナ禍も併せて、特定の寄付事業を確立する情勢に至らず、具体化できなかった。

２）事業運営体制の整備促進

事業の地域における位置づけが確立し、地域システム化が進んだ事業（北九州地域産業人材育成フォーラム事業、北九州の企業人による小学校応援団事業等）について、KPECの役割と各事業における関係機関・組織等（ステークホルダー）の分掌を明確にして、事業の自立化を含めた検討を行った。

３）会員募集と会員サービスの向上

（１）会員募集の強化

新規会員募集の推進については、解散検討に入ったところで、新規開拓を中止。

◇令和３年度賛助会員数：**７９名**（対前年：▲8 名）

◇令和３年度賛助会費額：**１，９２０千円**　（対前年▲２００千円）

（２）会員サービスの向上

賛助会員に対して、ＫＰＥＣが実施する各種地域活性化事業への案内、行政や他団体からの講演会開催等の情報提供を行い、会員との協働による地域活性化に務めた。

２．会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

１）理事会の開催

①定時理事会

第１回：令和３年5月３１日

第２回：令和４年2月２１日

②臨時理事会

第１回：令和３年6月２１日（書面決議）

第２回：令和３年１０月４日

第３回：令和４年1月１９日

２）評議員会の開催

①定時評議員会

第１回：令和３年6月２１日

第２回：令和４年3月１６日

②臨時評議員会

第１回：令和３年１０月４日

第２回：令和４年1月１９日

３）執行役員会議の開催　（月１回）

・第１回：　令和３年　４月１９日　　・第２回：　令和３年　５月１７日

・第３回：　令和３年　６月１６日　　・第４回：　令和３年　７月２６日

・第５回：　令和３年　８月２５日　　・第６回：　令和３年　９月２２日

・第７回：　令和３年１０月１４日　　・第８回：　令和３年１１月２２日

・第９回：　令和３年１２月２２日　　・第 10 回：令和４年　1月１２日

・第 11 回：令和４年　2月１５日　　・第 12 回：令和４年　3月７日

・臨時：令和３年9月１３日

別紙１

北九州地域産業人材育成フォーラム

令和３年（2021）度事業報告書

Ⅰ 概 況

令和３年度の北九州地域産業人材育成フォーラムは、コロナ禍２年目で、対応の方向性は見えやすくなったものの、緊急事態宣言のもと、学生のため、企業のため、臨機応変に対応する１年であった。

特に低学年に対するインターンシップ強化の中で、１年生～２年生と、継続してキャリア教育という観点で参加した学生の成長を把握することができたことは、大きな収穫であった。

また、企業、学校、事務局が 3 者一体となり学生に接することで、学生自身のキャリア形成が、社会発展に直結することを意識するが提供できると考える。地域で活躍する将来像をイメージさせることで、より多くの学生が北九州地域に活動の場を見つけ、地域産業が発展するものと確信する。

① 高度人材育成プログラム

「地域連携型インターンシップ事業」は「研修型(短期)インターンシップ」、「実践型(長期)インターンシップ」の推進、「産業医科大学（以下産医大）生」を対象にしたインターンシップの事業に加え、強化を図った低学年インターンシップとして、課題解決をテーマにした北九州市立大学（以下北九大）の１年生インターンシップ、労働安全衛生を切り口にした産医大２年生のインターンシップに取り組んだ。学生の成長につながる企業からの課題提示や、将来の中核人財を担う視点を醸成する、新たな事業創造に取り組む体験をするインターンシップなども、取り組む企業が出てきており、北九州地域での人材育成に対する新たな風が起きつつあると感じる。

② 社会人育成プログラム

中堅・中小企業の経営・管理者育成を目的として、北九大大学院マネジメント研究科（K2BS）と連携して「採用力強化セミナー」「実践経営車座講座」を実施する予定であったが、２年続けてのコロナ禍で、予定プログラムすべて見送りとなった。

③ 青少年育成プログラム

理工系イベント紹介ウェブサイト「北九州かがくの玉手箱(愛称: かがたま)」の運用を継続し、理工系イベントの紹介を実施した。北九州イノベーションギャラリーの指定管理終了に伴い、紹介コンテンツの減少に加え、サイト離れが発生しているところが見受けられ、ページビューが半減している状況となった。
コンテンツの再構築などの対応も今後検討が必要な状況である。
また、新たに取り組んだ、女子学生向け理工系職業インターンシップの支援については、学校側の理解が最も重要と考えながら、PR 不足で参加校が少なく、構築については課題が残ったものの、学生の将来には良い経験の場が提供できたと考える。

④ 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

コロナ禍の中で、ホームページの活用を中心に、フォーラム事業の情報を、手軽に入手できるように、提供方法、内容等改革を進めた。

令和３年度の北九州地域産業人材育成フォーラムの活動結果は、次の通りである。

Ⅱ．事業報告の内容

１．高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ」の中核事業である研修型(短期)インターンシップの拡充を図るとともに、実践型(長期)インターンシップの事業化のための環境づくりを実施した。

１）地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

（１）研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施（継）

大学から職場・社会への円滑な移行の確保のための社会人基礎力の修得と地元中堅・中小企業の認知向上による就職機会の創出等を目的に、連携校と協働で「研修型(短期)インターンシップ」事業を実施した。

令和３年度 研修型(短期)インターンシップ実績（継）

	H29 年度		H30 年度		R元年度		R２年度		R３年度	
	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施
学校(校)	6	5	6	5	6	5	5	4	5	4
企業(社)	88	39	83	32	86	39	62	21	59	34
学生(人)	74	65	74	65	85	76	41	36	55	49

（※）学校の実施数に関しては、エントリー学生がいた学校数とした。

① インターンシップの対象拡大と柔軟な対応（新）

フォーラム型インターンシップについては、コロナ対応を考慮し、抗原検査、PCR 対応や日程の柔軟調整に努めた。

② キャリアアップ型インターンシッププログラムの開発と環境づくりの推進（継）

『キャリアアップ型インターンシッププログラム』に関しては、関連する取り組みとして、北九大より「未来地域産業インターンシップ」として、長期に向けたキャリアアップ型インターンシップに取り組む大学１年生を対象にした課題解決型インターンシップの受入企業拡充支援を行い、企業への学生の橋渡し、報告会への参加等を実施し、以下の効果が期待できた。

・学生の自己の実力把握と学習目的醸成。
・企業への人材育成に対する認知向上。
・実践型（長期）インターンシップにつながる基礎部分の補強。
・キャリアアップ型の経験による、学生の自己成長の把握。

＜北九大１年生インターンシップ実施実績＞ ※フォーラム協働企業への参加者のみ

	令和３年度
受入企業	９社
参加学生	１２名

（２）実践型(長期)インターンシップ事業の拡充と環境づくり （継)

九州工業大学（以下九工大）北九州市立大学（以下北九大）を中心に「実践型(長期)インターンシップ」の実施環境づくりを行い、「課題解決型」の実践型(長期)インターンシップを実施した。特に１年近い長期のインターンシップにチャレンジした学生に関しては、成長ぶり目覚ましく、学生自身も成長実感が強かったと考える。また、初めて障がい者の学生を受け入れ、オンライン中心でのインターンシップが実施され、

＜実践型(長期)インターンシップ実績推移＞

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
実施企業	６社	４社	４社
参加学生数	８名	６名	７名

令和３年度 実践型(長期)インターンシップ実績

企業・組織名	大学：九工大		大学：北九大
	工学部	情報工学部	国際環境工学部
(株)ブラテック		２名	
(株)リョーワ	１名	１名	
日本ヒューム(株)		２名	
プロライト(株)		１名	
日建エンジニアリング(株)			１名（R2～R3）
合計４社	１名	６名	１名

① 実践型(長期)インターンシップ参加者増加のための施策の実施

インターンシップ受入企業の企業情報や研修内容および実際に体験した学生の声をホームページに掲載し、説明会などで紹介。

② 北九州工業高等専門学校（以下北九州高専）の実践型(長期)インターンシップコースの拡充支援 （継)

北九州高専の長期インターンシップ（本科、専攻科）の参加企業拡充に向けての支援を実施。

＜北九州高専長期インターンシップ実施実績＞ ※フォーラム協働企業への参加者のみ

	令和元年度		令和２年度		令和３年度	
	専攻科	本 科	専攻科	本 科	専攻科	本 科
参加企業	6	17	3	12	3	1
参加学生	8	24	4	18	5	1

コロナ禍により、代替授業への参加等で、昨年度より合計 16 名減

２）連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施

(1) 北九州地域企業研究・交流会の企画、開催（継)

北九州地域企業の企業研究・産学交流会の開催については、今年度もコロナ禍の中で中止とした。企業を知ってもらう機会を補完するため、学生の地元企業への興味を引くようホームページへの北九州の中小企業紹介のリンクを拡充した。

(2)「北九州地域産業人材育成フォーラム」ホームページの拡充（継）

インターンシップの参加者拡大を狙い、学生への動画提供を充実した。
夏休み前までに、学生がインターンシップ先を決めたことが伺えた。
・インターンシップ参加企業による、勧誘動画の協力
・企業紹介動画のリンクページの拡充
・インターンシップ対象企業 MAP（Google マイマップを利用）継続

＜ホームページアクセス数の変化（「北九州地域産業人材育成フォーラム」TOP ページ実績＞

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
ページビュー数（PV）	12,764	14,187	12,304
アクセス集中期間 （100PV/日以上の発生期間）	4/12～7/30	3/13～9/13	4/9～７/8

・アクセス総数、10%以上減

＜ホームページに関する学生アンケート生データ（サイト利用に関して：原文のまま）＞

・学校からのインターンシップ応募の連絡があったため。
・インターン先が安全で信頼できると保証があったため
・大学と連携しており、応募しやすかったから。
・事業内容や、インターンシップの内容が簡潔にまとめられていたから。
・就職活動、インターンシップを居住地域に近い場所で考えていたため。

(3) 連携校における各種事業プロモーションの実施環境の整備（継）

「インターンシップガイダンス」に関してもコロナ禍で、対面が見送られる中、基本オンラインで実施。
また、自由視聴のオンデマンド説明動画を作成し、北九大インターンシップ希望者に視聴いただいた。
広報チラシなども電子データで、各学校より学生へメール配信いただくなど、各学校の実情に合わせたプロモーションを実施した。

３）地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

（1）地域連携型インターンシップ運営のためのコーディネート機能の強化（継）

コロナ禍で、対面活動の制限により、新規開拓そのものが難しい中、コーディネーターも対面からオンラインに切り替え活動強化した。

（2）インターンシップ事業の円滑運営のための各種アンケートの実施（継）

「地域連携型インターンシップ」の円滑な運営のために必要な各種アンケート・調査を実施した。

◇地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学:IS 実施学生)
◇地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(IS実施全企業)
◇連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)
◇連携大学・高専における地元就職状況調査（全大学・全学部全学科別)
◇地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査（全大学・全学部)

＜アンケート結果概要（前年度との比較）＞

・学生が学んできたことが現場でどのように生かされるかを知りたいと感じる学生が増加している。
・学生の実習先の実習内容に興味を持っており、実習内容情報提供が重要。
・企業の実習期間に余裕を持ちたいと考える企業が増加。課題などを与える実習が増加し時間不足が影響していると推測。

２．社会人育成プログラム事業の支援

地域企業の中核専門人材の育成と経営管理者の育成を目的として、北九大大学院マネジメト研究科（以下「K2BS」）と連携した、経営者・管理者育成のための事業の支援については、２年連続、コロナ禍の影響を受けることとなった。

１） 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたプログラムの支援

K2BS と連携して、K2BS の環境を活用した地域企業の経営者・管理者育成のためのプログラムの支援を行う予定であったが、中止となった。

(1) 中堅・中小企業向け「ＭＢＡサテライトフォーラム」の開催・支援(継)

Ｋ２ＢＳによる公開経営研究講座の企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企業の経営者・経営管理人材の育成支援（リカレント教育・実践的マネジメントスキルの向上）と K2BS の地域プロモーションの促進を計画したが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(2) 経営管理者のための「実践経営学講座・車座塾」の支援（継)

ケースメソッドによる実践的経営学講座(車座塾）の企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企業の課題解決・経営革新および若手経営者（リーダー）育成の支援を計画したが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

２）中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

中堅・中小企業の中核専門技術者の技術力強化とスキル向上に有効な教育プログラムの活用促進のための支援を実施した。

（1）北九州ドクターチャレンジプログラムの活用促進（継)

北九州地域企業の中核技術人材の専門技術力の向上と研究開発の促進を図るため九工大大学院及び北九大国際環境工学部大学院の「長期履修制度」のフォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

（2）北九州テクニカルカレッジプログラムの活用促進（継）

九工大の「学術コンサルティング制度」の活用促進のため、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

＜学術コンサルティング制度活用状況＞

年度	平成 30 年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
活用実績（全体）	31 件	36 件	40 件	49 件
（内、市内企業）	（4 件）	（7 件）	(12 件)	（5 件）

＜令和３年度の特徴（前年度の違いや企業様の反応）＞

・宇宙工学、AI 関連の学術コンサルティングの件数、金額が増えており、長期的に本制度の利用を希望する企業が増えている
・市内企業の実績に減少傾向が見られたので、今後も積極的な PR を続けていきたい

※）「産学連携デジタルものづくり中核人財育成事業」プログラムの支援

今年度、１）中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたプログラムの支援がコロナ禍の中で中止となり追加策として、地域での中堅・中小企業に対する教育支援に関し、経済産業省「産学連携デジタルものづくり中核人財育成事業」で開発したカリキュラムに基づくスクールである、北九州工業高等専門学校が主催の、「第４次産業革命エグゼクティブビジネススクール」への受講者に対する受講料補助を実施した。

北九州市ロボットテクノロジーを活用した地方大学・地域産業創生事業
「第４次産業革命エグゼクティブビジネススクール」概要
【主催】北九州工業高等専門学校
【共催】早稲田大学大学院情報生産システム研究科，北九州市
【後援】九州経済産業局，九州オープンイノベーションセンター、北九州産業学術推進機構，
北九州商工会議所，㈱野村総合研究所、大分高専，熊本高専，佐世保高専，鹿児島高専
【協力】アラスジャパン合同会社，㈱ウェッブアイ，ダッソー・システムズ㈱，ビジネスｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱，
ＰＴＣジャパン㈱，㈱スタディスト，ミシマ・オーエー・システム㈱

＜令和３年度フォーラムからの補助結果＞

本講座（１０講座）受講率 80%以上を達成された参加者に対して、２３，０００円／人 を受講料補助として支援するもの。
・参加企業１４社：受講申し込み１８名
・受講率８０%以上参加者：１１名
・助成金 計： ２５．３万円

３．青少年育成プログラム事業の企画・運営（継)

産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的として、北九州地域科学・工学教育情報マップ"かがたま"による情報紹介および「北九州企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくりを行った。

１）北九州地域科学・工学教育情報マップ"かがたま"の運営・管理（継)

平成３０年度に開設した理工系イベント紹介ウェブサイト「北九州かがくの玉手箱(愛称:"かがたま")」の小中学校等教育機関をはじめ、地域や市民の活用促進のための環境づくりを実施した。

（連携教育機関・施設）

九工大・北九大・西日本工業大学・北九州高専・北九州市
立児童文化科学館・北九州市立いのちの旅博物館・北九州市環境ミュージアム・ＴＯＴＯミュージアム
・安川電機みらい館

＜令和３年度 "かがたま" ＷＥＢサイト 訪問（ページビュー）件数（前年比約 45%減）＞

月度	04月	05月	06月	07月	08月	09月	10月	11月	12月	01月	02月	03月
件数	1,695	1,172	2,219	3,326	2,140	1,493	1,752	1,813	1,837	1,497	2,149	2,040

２）「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり（継)

「北九州の企業人による小学校応援団」の出前授業について、フォーラム協働企業（ものづくり企業）を対象に「ものづくり」をテーマとした出前授業の募集を行い、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に支援した。

＜出前講座例＞

・磁石教室（磁石を利用したひびの見つけ方）　等

３）女子高生向け理工系職業インターンシップの支援（新）

女性の理工系分野への進出に加え、女子高生の地元就職・定着と地元モノづくり等企業の人材確保を促進するため、女子高校生を対象としたインターンシップを実施したが

小倉西高１人　⇒ 有薗製作所
戸畑高３人　⇒ 上津役製作所

という結果で、思うように参加が伸びなかった。原因としては、学校への理解を先にすべきところを、実施案内が先になったためと考えられる。

４．産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

フォーラム事業の拡充と持続的発展のための地域システム化を図るため、協働企業の会員化による事業の運営基盤の強化、事業運営の ICT 化を進めると共に、地域におけるプロモーションを推進した。

１）フォーラム協働企業の有志会員化の推進（継）

フォーラム協働企業(事業実施企業 160 社)をベースにして、フォーラム事業運営の基盤企業となる有志会員企業の登録を促進したが、コロナ禍が継続しており積極的な企業が無かった。

◇新規登録企業数　：　１社　（令和３年度フォーラム有志会員企業数：４１社）

２）フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施（継）

フォーラム事業を協働する企業経営・管理者と連携校の教員等関係者との交流促進のため「顔の見える産学交流会」（産学交流会等）の開催を検討したが、今年度もコロナ禍で実地できなかった。その補完も含めて、連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、動画を活用した産業別インターンシップ PR など、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの拡充を行った。

以上

令和3年(2021)度 産業人材育成フォーラム 決算

（単位：円）

	項　目	令和3年度予算額	令和3年度決算額	決算の増減	内　　訳
収入	1)負担金	8,500,000	8,500,000	0	
	①北九州市	7,500,000	7,500,000	0	
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000	0	
	2)会費	2,410,000	2,230,000	▲ 180,000	
	①企業会員	1,410,000	1,230,000	▲ 180,000	企業負担金 30,000×41社
	②大学･高専	1,000,000	1,000,000	0	大学等会費 300,000×3校　100,000×1校
	③交流会	0	0	0	
	3)雑収入	0	58	58	
	①出展料等	0	0	0	
	②企業見学ﾊﾞｽﾂｱｰ補助	0	0	0	
	③預金利息	0	58	58	
	4)前年度繰越金	500,000	529,929	29,929	
	【収入合計】	11,410,000	11,259,987	▲ 150,013	

	項　目	令和3年度予算額	令和3年度決算額	決算の増減	内　　訳
支出	1)人件費	0	0	0	
	①事業担当人件費	0	0	0	
	②臨時的雇用人件費	0	0	0	
	2)謝金	0	0	0	
	①専門家謝金	0	0	0	
	3)旅費	250,000	138,489	▲ 111,511	
	①旅費等	250,000	138,489	▲ 111,511	近距離旅費　等
	②専門家招聘旅費	0	0	0	
	4)委託料	9,370,000	9,092,080	▲ 277,920	
	①KTS業務委託	3,000,000	3,000,000	0	KTS　業務委託料一式
	②KPEC業務委託	4,670,000	4,670,000	0	KPEC　管理費、人件費一部負担等、業務委託料一式
	③その他業務委託	1,700,000	1,422,080	▲ 277,920	HP改修･クラウド料 等
	5)その他経費	1,790,000	1,429,494	▲ 360,506	
	①会場借上げ料	55,000	3,500	▲ 51,500	
	②印刷費	400,000	145,025	▲ 254,975	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ 等
	③通信運搬費	35,000	92,038	57,038	リーフレット送付･電話代　等
	④事務消耗品費	100,000	136,265	36,265	事務用消耗品費、DX対応品費　等
	⑤会議費	50,000	45,355	▲ 4,645	会議時飲み物代　等
	⑥交流会費	50,000	0	▲ 50,000	
	⑦使用料及び賃借料	550,000	655,884	105,884	事務局関係諸費
	⑧雑費	550,000	351,427	▲ 198,573	振込手数料　等
	【支出合計】	11,410,000	10,660,063	▲ 749,937	
	次年度繰越金	0	599,924	599,924	

別紙２

北九州の企業人による小学校応援団

令和３年度事業報告書

Ⅰ 支援事業の推進

企業等の協力を得て、親学推進プロジェクト、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（ＰＴＡ）向けの研修等を継続実施した。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境プジェクトを実施した。

支援対象は市内の全市立小学校129校で、出前授業の利用は申し込みが37校、実施回数は198回であった（令和2年度は31校、78回）。

今年度も新型コロナウィルス感染症の影響により、出前授業の延期や中止などが相次いだが、企業側が小学校の要望に応える形でリモート授業を導入したり、日程の再調整に柔軟に対応した結果、実施回数はコロナ前の令和元年度の84%に回復した。

１．親学推進プロジェクト

PTAへの父親参加の促進、企業従業員を対象にした親学推進について、普及に向けた具体策を図ると共に、ＰＴＡ活動支援についても継続を検討した。

１） ＰＴＡへの親（社員）のＰＴＡ総会など各種事業への参加促進

校長会・ＰＴＡ協議会・小学校応援団の連盟で小学校応援団参加協力企業に対して、ＰＴＡ総会や各種事業の案内を配布するなどして、参加促進を図る予定であったが、新型コロナウィルス感染拡大の状況を考慮し、今年度は配布を自粛した。

２） 参加協力企業における親学推進

参加協力企業の従業員を対象に、小学校の現況や学校との関わり方等の理解促進を目的とした親学推進事業（出前説明会）を環境の変化について意見交換を行った。

２．講師派遣プロジェクト

児童を対象とする出前授業、教諭や管理職の研修会への講師派遣等についての環境づくりと支援を行った。

１） 出前授業・研修の継続実施

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（ＰＴＡ）向けの研修等を継続実施した。

今年度も新型コロナウィルス感染症の影響で出前授業の講師派遣が難しい中、ヤフー㈱、シャボン玉石けん㈱に加え、今年度からTOTO㈱もリモート授業に対応し、合わせて8件12回のリモート授業が実施された。さらにオリジナルオーダーの「職業ミーティング」においても、中井小学校、若園小学校の２校でリモート授業が実施され、八幡図書館や看護師、保育士会、ギラヴァンツ北九州などがリモート参加した。中井小学校の職業ミーティングでは、コロナで自宅学習中の児童もオンラインで授業に参加した。

２） 出前授業・研修の業務円滑化の推進

（１）利用方法の周知徹底

講師企業ごとに、事前の準備及び当日のやり方などが異なるため、小学校が

利用方法の把握が難しい場合がある。これらの課題を解消するために、事前・当日の利用方法について、申し込み受け付け時に利用校へ再度通知を行うなど、きめ細やかな対応を徹底した。

（２）ガイドブックの制作と配布

出前授業のテーマ一覧や授業内容及び申込み方法などわかりやすく紹介する「ガイドブック」の制作と配布を継続して行うった。また、講師企業への理解度を上げることが、小学校にとって安心して出前授業利用できることに繋がるため、講師企業紹介を企業と相談しながら盛り込んだ。
今年度から北九州市教育委員会の協力を得て、小学校のスタンダードカリキュラムとの関連付けをガイドブックに記載したところ、現場の先生方からも好評をいただき、これまで申し込みの少なかったテーマについても需要や関心が高まった。

３） 学校現場のニーズに対応した出前授業の環境整備

企業からの出前授業の登録に加え、小学校側の希望テーマに対応した出前授業の環境づくりを行い、ニーズに対応した出前授業の充実を図った。毎年春に実施している小学校へのアンケート調査をもとに、小学校からのニーズの高い新規テーマの開拓を検討した結果、令和4年度は、SDGｓ関連やものづくり、福祉、プログラミングなど15の新規テーマ登録につながった。また、リモートや動画配布といった実施方法の要望についてもヒアリングを行い、企業に対してリモート授業の導入を積極的に呼びかけたところ、九州電力㈱北九州支店や行政書士会、㈱サンレーなど、新たに24テーマがリモート対応授業となる。

（１）小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマの継続

2018年度より試験的に実施している、小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマへ対応する出前授業の実施について、協力企業等の環境を調査し、実施体制の構築を図った。

（２）新学習指導要領へ対応したテーマ設定

2020年度から新学習指導要領がスタートしたことで、小学校のニーズがより多様化している。小学校に対しニーズ調査を行い、調査結果をもとにニーズの多いテーマについては固定テーマの設置が可能となるように、講師企業の開拓に努めた。

３．社会体験プロジェクト

児童の社会体験学習の支援・協力や、教諭や学校管理職の研修の受け入れについて、小学校の要請に対応した環境調整と支援事業を行った。

４．環境づくりプロジェクト

小学校応援団事業の円滑な運営環境を構築するため、市教委等教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進を図った。

１） 小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要であることから、小学校長との意見交換会を昨年度に引き続き開催する予定であったが、新型コロナウィルス感染症の影響を考慮し、今年度の開催を見合わせた。

５．広報の充実化

小学校応援団事業は、北九州地域の企業が協働して、出前授業などを通じて、小学校支援を行う全国的にも珍しく取り組みである。また、文科省が掲げる学校を核とした地域の創生を目指す「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けた具体的な取り組みであり、地域協働の体制づくりが求められる。関係者のみならず、地域に周知する必要があるため、以下の項目について重点的に実施した。

１） 小学校関係者の認知向上と活用促進のための広報の実施

4月にコーディネーターが小学校を訪問し、教員に対して小学校応援団の主旨及び内容、利用方法などの説明を実施し、事業の周知を図った。新型コロナの影響を考慮し、訪問に際しては学校長の事前許可を必須とし、コーディネータ自身の判断によって電話によるヒアリングに切り替えるなど臨機応援に対応した。

２） 地域企業等の認知向上と協力環境の構築のための広報の実施

パンフレットの配布やホームページによる事業紹介を積極的に実施し、企業への周知を図った。

３） 保護者や地域コミュニティ等の理解と協力環境の醸成のための広報の実施

小学校応援団のホームページを更新し、地域コミュニティ等における小学校応援団事業の周知を図った。また、適宜、応援団の活動状況を報道機関に情報提供した。

Ⅲ　支援体制の充実

１．コーディネーターの組織体制の強化

対象校の拡大に伴い、平成26年度に事務局と学校を繋ぐ役割としてコーディネーターを設置した。多様化する学校のニーズに対応していくために、引き続きコーディネーターの設置と人材育成の強化を図り、各学校の状況、要望に沿った周知、支援を行った。

２．参加協力企業等の拡大

全校（129校）体制に対応した出前授業の実施環境の構築のため、市内の関係機関等の協力を頂きながら参加協力企業の拡充を行った。

Ⅳ　三者会議の開催

北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成２５年４月１日締結）に基づき、当応援団、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を開催し、支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整を行う等、事業の円滑な推進を図った。

北九州の企業人による小学校応援団　令和３年度決算

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

収入　　単位：円

項目	予算額	実績額	参考（令和2度予算額）
負担金	7,500,000	7,500,000	＜負担金拠出額＞ 北九州市　5,500,000 北九州活性化協議会　2,000,000
利息		36	
計	7,500,000	7,500,036	7,500,000

支出　　単位：円

項目	予算額	実績額	説明
支援事業費	900,000	826,888	講師謝金、出前授業ガイドブック
コーディネーター業務費	856,000	682,900	費用弁償等
広報・プロモーション推進費	605,000	759,780	パンフレット作成等広報費、ホームページ・システムの運用、充実等
人件費	4,100,000	4,100,000	事務局人件費
事務局経費	1,039,000	1,130,468	会議費、交通費、消耗品費、通信運搬費、事務室等使用経費等
計	7,500,000	7,500,036	